

機械設備工事特記仕様書

☆ 一般共通事項

1. 適用範囲

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は以下の最新版による。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（機械設備工事編）

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築設備工事標準図」（機械設備工事編）

独立行政法人建築研究所監修「建築設備耐震設計・施工指針」

建築基準法

消防法等関係法令

☆ 指定配管材料

・管材	床下暗渠内	天井内	PS内・空隙壁中	地中埋設
給水管	SGP-VD	SGP-VB	SGP-VB	HIVP
排水管	VP	TP	VP	VP
雑排水管	VP	TP	VP	VP
汚水管	〃	〃	〃	〃
通気管	〃	VP	〃	
ドレン管	〃	〃	〃	
雨水管				〃

SGP-VB	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K 116
SGP-VD	水道用硬質塩化ビニル内外面ライニング鋼管	JWWA K 116
HIVP	耐衝撃性水道用硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6742
VP	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741
TP	耐火二層管	JIS K 9798

☆ 保温、塗装及び防錆工事（詳細は標準仕様書による）

・保温材	床下暗渠内	天井内	PS内・空隙壁中	
ロックウール保温材	・	・	・	
グラスウール保温材	・	◎	◎	
ポリスチレンフォーム保温材	◎	・	・	
	床下暗渠内	天空井P S壁内中	屋内露出	機械室倉庫
			屋外露出	多湿箇所
				土中埋設
・配管				
保温管+ポリエチレンフィルム+着色ALGC	◎	・	・	・
ALGC化粧保温筒	・	◎	・	・

※以下の管は保温を行わない。

・排水管で床下暗渠内配管、耐火二層管

・通気管（排水管の分岐点より100mm以下の部分を除く。）

☆ 特記事項

1. 耐震

耐震施工とし、すべて標準仕様書及び耐震設計・施工指針に準ずる。

2. 防音・防振

防音並びに防振には充分注意し、機器基礎には防振装置を施し、吐出側、吸込側には必ず防振継手を使用して接続する。特記無き防振継手は下記による。

合成ゴム製	水用	15A	～	40A	300mm
		50A	～	80A	500mm
		100A以上			700mm
ステンレス製	水用	15A	～	25A	300mm
		32A	～	50A	500mm
		65A	～	150A	750mm
		200A以上			1000mm

3. 水抜き・エア抜き

配管上必要箇所には水抜き弁、エアー抜き弁を取り付ける。

4. 絶縁継手

異種金属配管との接続は全て絶縁継手を使用し施工のこと。

5. 埋設深さ

車両道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上。

6. 勾配

給水、給湯、消火、冷却水管、冷温水管及び油管の場合は、水抜き及び空気抜きが容易に行えるように適当な勾配をとる。屋内横走り排水管の勾配は、呼び径65以下は1/50呼び径75、100は1/100、150以上は1/200とする。

通気管は、全ての豎管に向って上り勾配をとり、いずれも逆勾配または凹凸部のないようにする。

7. 表示

屋外埋設配管の各主要箇所には埋設標を設置すること。機械室内、PS内、DS内、床下ピット内等の機器、配管、ダクトの主要箇所には機器名、系統名を記入のこと。バルブ、ダンパーには名称、開閉表示をアクリルプレートに刻字の上取り付けること。

8. アンカーボルト

屋外露出及び多湿箇所に設置する機器、架台等のアンカーボルトは全てステンレス製とする。

9. ライニング鋼管

ライニング鋼管（一般、耐熱）の施工に際しては、必ず管端コア付継手を使用しメーカー施工基準ののっとり施工のこと。

10. バルブ

ライニング鋼管に取り付ける弁類は下記による。

ねじ込み式の弁 15A～50A 管端防食ねじ込み形弁

鑄鉄製の弁 65A以上 ライニング弁

11. 樹仕様

・現場打ち ・既製樹（コンクリート製） ◎塩ビ樹、小口径樹

特記なき場合は防臭中耐マンホール付とする。

地盤高の設定と放流先のレベルを充分調査把握し、排水縦断面図を作成し逆勾配にならないように樹の深さを設定すること。問題が生じた場合は監督員と協議し調整すること。

12. ダクトの保温工事

外気導入ダクト並びに外壁から1mまでの排気ダクトには保温を施すること。

13. 防火区画貫通処理

建築基準法に基づき国土交通大臣認定品にて施工を行うこととする。

ダクト関係はFD取付け、冷媒配管等は2時間耐火措置を施すこと。

14. 材料の特性を把握し、配管の伸縮を考慮した施工とすること。

15. 冷媒管の保温仕様は、国交省仕様に準じること。

16. 消防等諸官庁への申請等は本工事とすること。

17. 工事全般

既存部分他に関しては現地調査を重点的にに行い、現況との取合いを確認し、監督員と協議し施工すること。

凡例

記号	種別	施工箇所	仕様
———	給水管	一般配管	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管
———	〃	屋内露出	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管
———	〃	屋外露出	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管
———	〃	土間配管	水道用硬質塩化ビニル内外面ライニング鋼管
———	〃	地中埋設	耐衝撃性水道用硬質ポリ塩化ビニル管
———	汚水管	一般配管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	〃	屋外露出	排水用塩ビライニング鋼管（DVLP）
———	〃	土間配管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	〃	地中埋設	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	〃	土間配管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	〃	地中埋設	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	器具接続排水管		硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	屋外排水管		硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	通気管	一般配管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	〃	屋内露出	配管用炭素鋼鋼管（白）
———	〃	土間配管	硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
——— RD ——	雨水管		硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
——— G ——	ガス管		ガス供給業者指定管
⏏ ⌕ N	仕切弁・逆止弁		給水管用管端防食ねじ込み形弁（5K）
——— R ——	冷媒管		冷媒用被覆鋼管（保温厚保t20、t10）
——— D ——	ドレン管		硬質ポリ塩化ビニル管（VP）
———	スパイラルダクト	一般配管	亜鉛鉄板製（SS）

※ 一般器具の接続・枝管の給水・給湯管に保温付ポリブデン管（5t）（JIS K 6778）

架橋ポリエチレン管（JIS K 6769）を使用しても良い。

※ SUS配管は拡管継ぎ手を使用とする。



太田市建築住宅課

履行名称

旭小こどもプラッツ新築工事

作図年月日

2026.8

図名

機械設備工事
特記仕様書

縮尺

-

備考

図面番号

M-01

衛生器具表

[illegible]

冷暖房機器表

[illegible]

太田市建築住宅課

履行名称	
------	--

旭小こどもプラッツ新築工事

作図年月日

2026.8

図名

機械設備
機器表

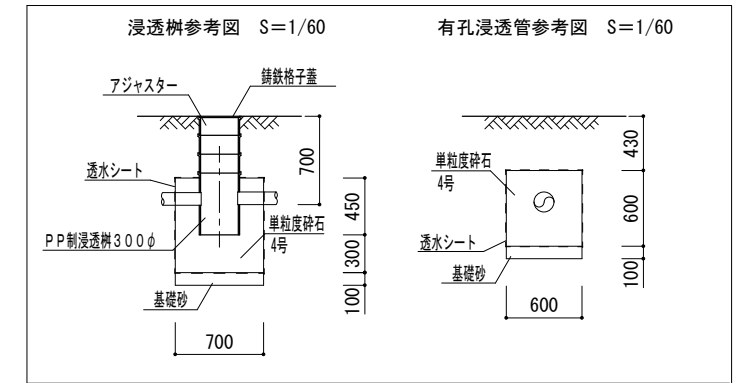
縮尺

—

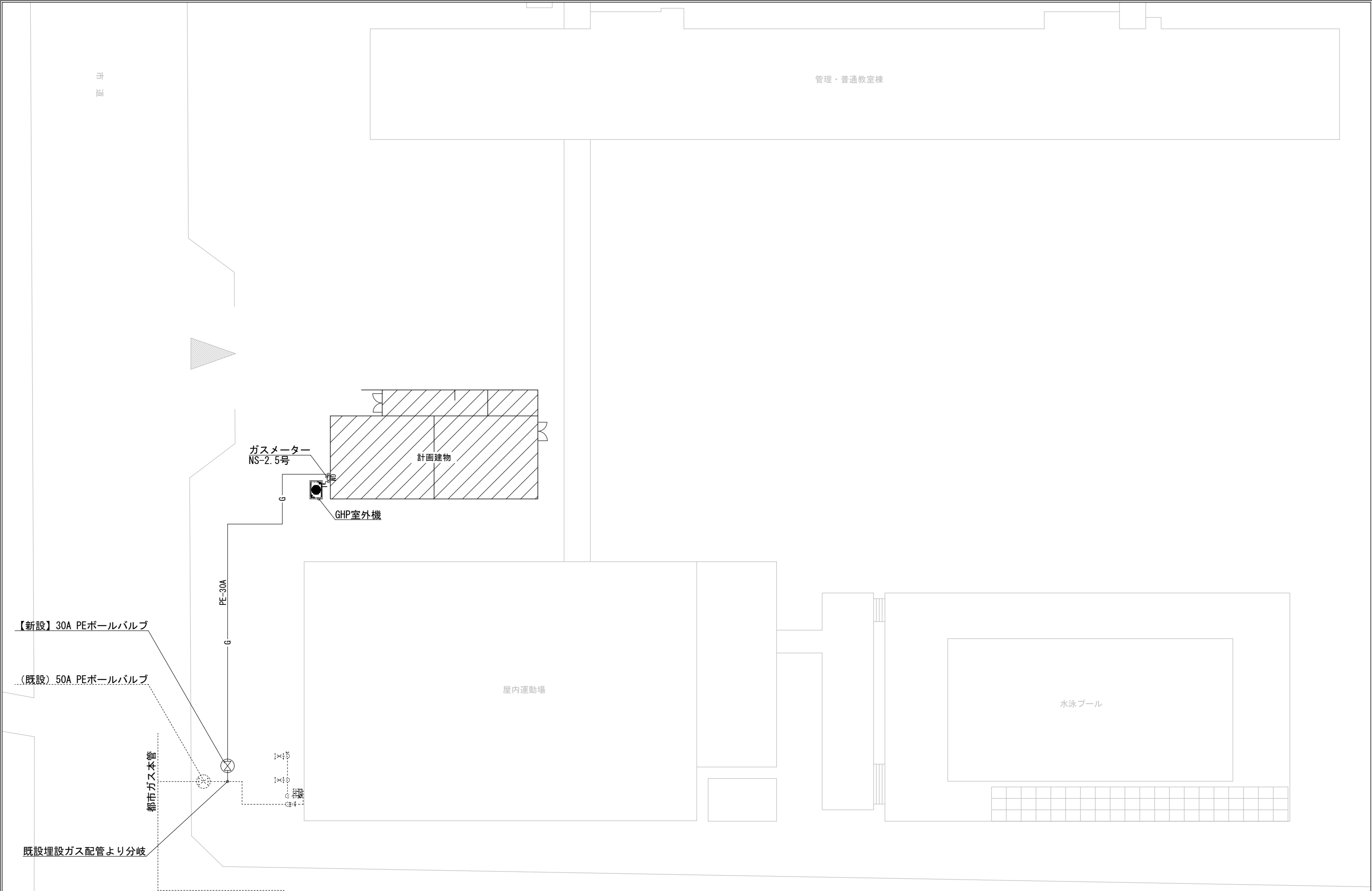
備考

図面番号

M-02

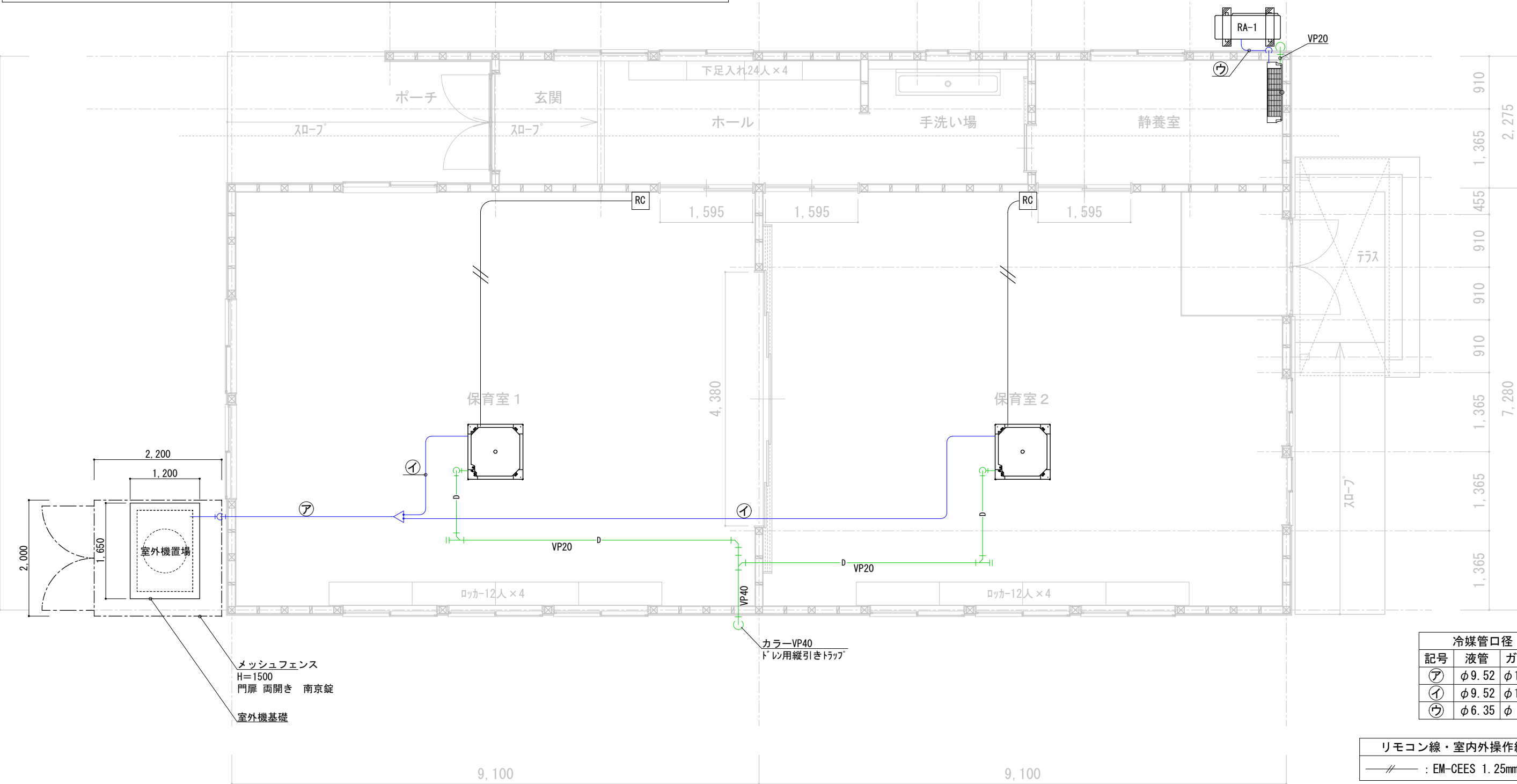
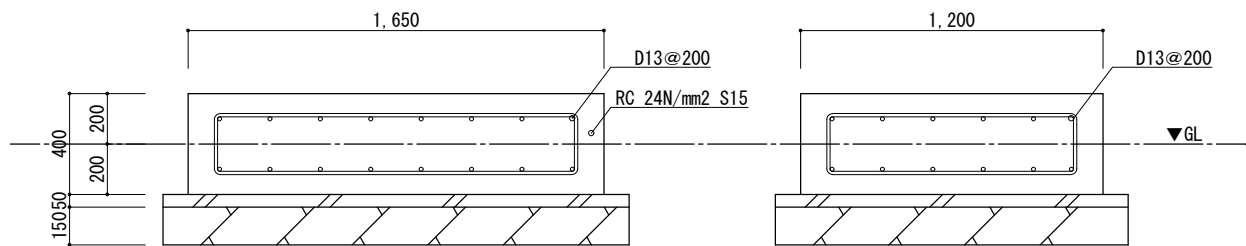


履行名称	作図年月日	図 名	縮 尺	備 考	図面番号
旭小こどもプラッツ新築工事	2026.8	構内配管図	A3: S=1/100		M-03



 太田市建築住宅課	履行名称	作図年月日	図 名	縮 尺	備 考	図面番号
	旭小こどもプラッツ新築工事	2026.8	都市ガス設備 構内配管図	A3: S=1/100		M-04

室外機基礎詳細図 S=1/30



冷媒管口径		
記号	液管	ガス管
ア	φ9.52	φ19.05
イ	φ9.52	φ15.88
ウ	φ6.35	φ9.52

リモコン線・室内外操作線	
—	: EM-CEES 1.25mm2-2C

※室内外操作線は冷媒管共巻きとする

